

私の先生～グアム～

福田 真子

Guam へ出発する 3 月 25 日、私は不安と緊張で胸がいっぱいでした。

Guam 空港へ到着し税関を抜けて、いよいよホストファミリーと対面となる時の気持ちは今もはっきりと覚えています。けれどもホストファミリーと対面すると私の不安と緊張であふれていたあの気持ちはどこかへ吹き飛び、Guam の人達の温かなパワーと優しさであふれ返っていました。Guam の街を歩いていると、きれいな虹が私たちを歓迎してくれました。

そんな素敵なスタートを切り 2 日目、3 日目と過ごしました。3 日目に行ったビーチでは、皆で美しい海を眺めたり、さわいだりして最高に楽しみました。他には普段は立ち入らないような陰しいジャングルのような道を進み、神聖なるケープに行きました。話すと精霊が出るといわれ恐ろしい感じもしましたが、とても神秘的な世界に入り込めました。

そして最終日の前日の 5 日目にはチャモロビレッジやフィッシュアイなど様々な場所を見学しました。そんな時、常に感じていたのが Guam の人々が私たちを一番として考えてくれて、自分たちが無理をしても楽しませようとする温かな気持ちでした。Guam は気候も暖かいですが、人々もとても温かくて本当にあたたかな島だと思いました。

日本へ帰る前日の夜、私が荷造りをしているとホストファミリーが私に初日に撮った家族全員の写真が入った写真立てとホストフレンドの Vance の妹 Megan が書いた Guam 島の絵と手紙をプレゼントしてくれました。そんな「家族」を見て涙もろい私はうれしさのあまり泣きそうになりましたが、空港まで涙は残しておく決めていたのでこらえました。

そしてついにやってきてしまった最終日、泣きながら別れを惜しみ最後まで手を振り続けました。私の泣き顔を見た空港の検査員の方が私がホームステイしていたのだと気づき、「Do you love Guam?」と声をかけて下さり、「I love Guam!」とはっきりと答えることができました。飛行機から美しいグアムを雲で隠れるまで、ずっとずっと眺めていました。

この 6 日間の体験はこれからの私にとって、大きな一歩を踏み出せ、きらりと光る何かをつかめた気がします。こんなことができたのも、色々な方々の支えがあったからだと思います。引率して下さった木内先生、湯浅先生に、誰よりも頑張ってくれていたリーダーの久留主さん、そして両親にも感謝の気持ちを忘れずにいようと思います。小さく美しい島から生まれた一つの物語。私は心から Guam を愛します。Guam は私の先生です。

